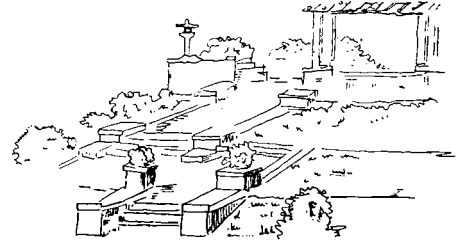


# 春の庭園の手入

石田文三郎



北海道も半年の冬もりを終り金魚売の声をきくようになると、春めいてま

いります。そうなると先ず第一に庭の仕事としては冬囲いを取ることになります。

## 冬囲の取除く時期

庭の雪が、消え昨年秋冬囲をした牡丹、アジサイ、ツツジ類、バラなどの莖や菰はみたくいので、直ぐにでも取り除きたいような気もいたしますが、余り早く（四月初め頃）冬囲を取り除くことは取つてから強い降霜のために、せつかくの新芽がやられて黒く枯れることがあるので、札幌附近の例年の適期は四月十五日前後がよいかと思えます。また余りおそく冬囲を五月になつてから取るような場合は、芽が伸び過ぎて結果よくありません。冬囲の菰を取つたなら、その附近にある落葉や芥は掻き集め、焼却した方が害虫の卵や病菌などを無くすることができま

す。冬囲を取つた時、雪のために牡丹やアジサイなどの枝の折れたものや枯れたものは

鉄で切り取ります。オンコや松の樹等の枝つりのものもこの際取り除くことが必要です。

芝庭（ローン）は雪どけ後四月十日頃晴天の日に、熊手やレーキを使つて、枯れた芝草やローンの中にある芥は掻き集め捨てなければなりません。

## 施肥の時期

庭園樹の施肥は誠に大切なもので、灌木類の花の咲くもの、例えばツツジ類、シャクナゲ類等は特に必要であるが、そのほかでも梅や桜、海棠、木蓮等も施肥を怠ると花つきが悪い。それでは何時頃どんな肥料を施せばよいかということになる。

肥料としては菜種油粕または人糞尿その他のものが用いられているが、人糞尿は庭園には少々不潔であるので、手近に入れ易いものでは油粕を施した方がよい。其の施肥の方法は雪どけ後四月下旬乃至五月初め頃ツツジ類、シャクナゲ類、牡丹、ボケ、レンキョウ等は根の廻りを少々はなして、三、四センチの深さに円形に根を傷めぬように鍬で掘り、その中に油粕の粉末を樹の大きさにより一、二デシリから二、三デシリくらい周りに撒き、うすく土を掛けておけばよい。

梅や海棠、白蓮などの大木であれば、油粕

の分量も五デシリツツルから一、二センチくらい施す場合もある。灌木類以外の松の木とか紅葉、オンコ、その他の庭樹にも施肥すれば、葉の色も良く発育もよくなることは当然であります。灌木類にはぜひ施したいものです。

## ローンの施肥

北海道のローンは主にケンタッキブリューグラスと称する牧草であるので、雪が消えると同時に草が青く芽ばえてまいりますから、前に述べた枯れた牧草や芥は集めて捨ててから、四月中旬乃至下旬菜種油粕の粉末を四平方米に対し二、三デシリくらいを牧草の上に撒布してやれば青々と繁茂致します。また最近では尿素を施すことも一法です。しかし硫酸アンモニアを施す人もあつて早効ではあるが土地が酸性になり易いので、芝が荒れ易いから使わぬ方がよい。

## バラの手入

昨春秋、菰で冬囲した蔓バラや四季咲バラは雪どけ後四月中旬頃冬囲を取り去り、同時に根元に敷いた落葉を取り防寒の為根元に寄せた土は元に戻しながら、元肥（乾燥肥料としてバラに使用のもの）を一株に一、二センチくらい根元の周囲に施すと同時に剪定を行ない、凍害にかかつた枝や、細い枝は枝元から剪定鋏で切り取り、よく充実した太い枝（シュート）を三本乃至五本くらい残し、枝の上部から約半分くらいの処で剪定することが必要である。

蔓バラも冬囲の取りはずしや施肥は四季咲バラと同じようであるが、枝の剪定は昨

年及び一昨年よく伸びている枝はそのまま残し、古枝及び細かい枝はこの際、根元から剪定し、柵とか柱とかに枝を細いシロ縄で結びつけてやります。バラはウドンコ病にかかり易い植物であるから、冬囲を取ると同時に、石灰硫黄合剤の十倍液をバラの幹は勿論のことですが、その地面にもよく噴霧器で撒布することが必要です。バラが発芽してからの石灰硫黄合剤の使用は薬液をうすめ八〇倍乃至一〇〇倍液を使用しなければバラの葉を害することがありますので注意しなければなりません。

## 水蓮池の手入

昨春秋に水蓮池を菰で冬囲してあるものは、四月二十日頃になると池の水も殆ど氷もとけているので、中の水を汲み出し水蓮を植えてある鉢から取り出し、芽と根が充滿しているものを、水蓮の芽を二、三芽残して、根を余り傷めぬように切れる庖丁で根茎を切り、根分けしたものを、元の鉢に肥料のある土で植込むと同時に、元肥として身欠鍊を一、二本をこの中に挿し込み、水蓮を植込んだ土の上に小石（五、六センチのもの）七、八個を入れ、水蓮の根茎が池に入れてから水面に浮べぬために入れ、鉢のまま水蓮池に入れ水をそそげばよいのであります。この根分は早い時期程水蓮の開花も早く花を咲かせることができます。水蓮を二、三年も根分をせず置くと置く人もありますが、あまり根が張ると花も小さくなるのみならず咲く数も少なくなりま

す。以上は春の庭園の手入ですから、ぜひ行なつていただいで、よい美しい庭を作つて下さい。（雪印種苗顧問）